
猜疑心の座

村雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

猜疑心の座

【Nコード】

N4376K

【作者名】

村雲

【あらすじ】

こんなに清々しい朝だから、
少しでも呼吸を止める。

時刻は六時

君が死んだ朝と同じ眩しさに怯えて

息をする

とつても

心が穏やかなんだ

好きも嫌いも

色んな憂鬱だと片付けてしまえば

陶酔に浸るのは

簡単な事だったんだよ

だけど

穎脱なのだと自惚れる呼吸

こんなにも穏やかな気持ちを知れる自分自身

ただそれが

酷く恐ろしい

良い人は好きだ

ドラマや漫画に出る偽善者キャラもそうさ

でも良い人過ぎるのは

嫌い

何でかは知ってる

全部僕が作った

僕だけの為の理由なんだよ

良い人だって嘘はつくし

イヤな行動のひとつは取るだろう？

僕は良い人を嫌いになる為に

そんなちっぽけな弱点を

いつだって探しているんだ

それを理由に嫌いになれば

自分は許されると

思ってる

軽蔑するかな

良い人を好きになれる

幼く無知な虫けらに似た僕を

君が死んでしまった朝に

泣かない僕は自分の心臓の音を

聴いていた

色んな人が少しだけ

僕を睨んでいたよ

「何で涙のひとつも流してやれない」

誰かがそう呟きそうなのを

いくつもの視線で感じたけど

何故だか僕は

少しでも安心したんだ

何でかは知ってる

全部が同じ

僕だけの為の理由なんだ

きみがきえる

それを理由に嫌いになれば

自分は許されると

思ってる

だってわかってたんだ

君はとても優しくて

良い人だった

僕は本当に恵まれてる

こんなにも良い人達が周りにいる

嫌いになる時に

泣かない理由は知らないけど

サヨナラの際は

どんなに硬い糸だつて

容易く

錆びた凶器で切つてしまえる

刃はいつでも

喉の奥、

頭の隅、

例えば「ありがとう」の言葉にさえ

ちょっとだけ怖い

今日誰かを嫌いになるんじゃないか

考えると

とてつもなく悲しくなるんだ

訳がわからなくていい

良い人ばかりを嫌いになって

いつの日か

僕の周りには嫌いな人だらけになっていく

自分がどうしようもない奴だってわかってるさ

だから嫌いな人が良い人だってことを

忘れない

時刻は六時

今はどうだっていいんだけど

死んだ君を嫌いになったのを思い出すと

心奪われる為の悲哀が

ただ単に

穏やかに笑えるほど

酷く、恐ろしく思えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4376k/>

猜疑心の座

2010年10月21日20時20分発行